

## 教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒  
明るく思いやりのある生徒  
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第 9 号

平成30年 9月 4日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

## 「誇りを胸に精進を重ねてほしい」

### 東北大会に4種目、全国大会に2種目参加

全国大会に出場した柔道部の加藤陽岐くん(3年)、男子ソフトテニス部の代表：会田楓輝くん(3年)・橋本蒼弥くん(3年)から報告を受けて、私はこう言いました。

「全国大会に出場できたことはたいへん輝かしく、名誉なこと。そこで『勝負の綾』を引き寄せられなかったとしても誇りを持ってください。その名誉とか、誇りというものは、優勝して全国大会の出場権を勝ち取ったその瞬間にあったのではなく、そこに至るまで生活を律し練習に精進し、強い気持ちで戦い抜いてきた道のりにあるのです。その道のりは、これからも続きます。運動に、学業に、さらには進路など、皆さんの将来の道のりにもつなげていってください。」



県大会には、女子ソフトボール、男女ソフトテニス、男女バドミントン、女子卓球、男女柔道、男子体操、男女水泳の男女11種目に参加しました。7月22日(日)から福島市、郡山市、会津若松市、いわき市を会場に開催されました。結果は次のとおりです。(個人戦は、入賞者のみ紹介します。)

ソフトボール 決勝トーナメント 対湯川中 1-2 惜敗

ソフトテニス男子 決勝リーグ戦 2勝1敗(第2位：東北大会出場)

個人 第3位：山邊勇和③・岩本翔太③ペア 第3位：吉田琉晟③・吉田 航②(東北大会出場)

ソフトテニス女子 決勝リーグ戦 3勝0敗(第1位：東北大会出場)

個人 第1位：永沼さくら③・鎌田美樹③ペア(東北大会出場)

バドミントン男子 決勝トーナメント2回戦敗退

バドミントン女子 決勝戦 対猪苗代中 0-2 惜敗(第2位：東北大会出場)

柔道男子 決勝トーナメント 対尚英中 2-3 惜敗

個人 60kg級：第3位 佐藤 優璃③(東北大会出場)

同 81kg級：第1位 加藤 陽岐③(東北・全国大会出場)

体操男子 第3位

水泳女子 100m平泳ぎ：第8位 有我 由宇②

また、東北大会には、団体戦に男女ソフトテニス、女子バドミントン、個人戦にソフトテニス男女3ペア、柔道2名が参加しました。ソフトテニスが最も早く8月6日(月)に現地入りし、次いで柔道、バドミントンが現地に出発し、東北の猛者に挑みました。さすがに、容易に勝たせてはもらえず、「上位大会になればなるほど実力が拮抗して、『勝負の綾』を引き寄せるのは容易ではない」ことを痛感させられました。しかし、そのレベルで戦えたことは貴重な経験になったはず。その中で、県中大会・県大会と第2位だった男子ソフトテニス部が優勝したことは特筆すべき快挙で、「勝負の綾」を団結力で引き寄せたことを讃えたいと思います。

こうして、広島県で行われた全国大会には、男子ソフトテニス部(団体)と柔道の加藤陽岐くん(個人)が参加しました。しかし、ともに1回戦で敗退となりました。そこで冒頭の言葉に続きます。

全国大会の出場報告の時に浮かんだ思いを言葉にしたのですが、支部大会で敗れたとしても、大会を目標に生活を律し、自ら求めて練習に励み、強い気持ちで戦い抜いた生徒には同じように言ってあげたいと思います。第2学期最初の職員会では、「誇りを胸に生活できる生徒であってほしいですね。」と先生方にお話しました。



## 文化祭のスローガン決定

### 「STEP～ 未来へつなごう二中の伝統～」

10月19日(金)に開催する今年の文化祭のスローガンが、上記作品に決まりました。全校生から募集した案を生かして文化祭実行委員が仕上げたものです。あわせて、イラスト作品も下記のとおり決定しました。

- ◆ 壁画賞 3年7組 佐々木綺華
- ◆ パンフレット賞 3年8組 柳沼 亜樹
- ◆ 裏表紙賞 3年3組 柳沼 幸多



## 自分の将来を切り拓く力

## 「文武両道」をスクール・プライドに

第2学期の始業式では、こんな話をしました。

本校には、いろいろなスローガンがあります。

まず、「あいさつの二中、歌声の二中、We Love 二中」

今年の文化祭のスローガンは「Step～未来へつなごう 二中の伝統」とあり、「伝統」を「うたごえ」と読ませますから、歌声は立派に二中の伝統なのでしょう。

次に、「不撓不屈」と「文武両道」の順でよく耳にしますね。



「文武両道」とは、文：学問の道にも、武：スポーツの道にも両方励んでいるという意味です。武をスポーツと言いましたが、文化部の部活動をも含めて考えていでしょう。

さて、ここからです。皆さんに、お聞きします。

「文武両道」とは、須賀川二中にとって「伝統」なのですか？ それとも「課題」なのですか？

(挙手させると、「伝統」はほとんどなし。「課題」は6割くらいいたかな。)

この夏休み中も、部活動面では、各種大会で素晴らしい活躍をしました。しかし、上位の大会で入賞したからというだけの理由でなく、多くの生徒が部活動に高い目標をもって熱心に取り組んでいるという点で、「伝統」と評価してもいいかもしれません。

学業の面でも、成績がいいとされる高校に入れる人がどれだけいるかという理由だけでは評価しにくありません。点数の問題ではなく、自ら学習に熱心に取り組んでいると自己評価できるかどうかを一人一人の課題にしてほしいと思います。

橋本克也須賀川市長は、須賀川市が「選ばれるまち」になることを須賀川市の誇りにしたいとおっしゃり、「シビック・プライド」という言葉を使われます。今年の生徒会スローガンは、「ザ ハッピーエスト スクール～ずっとここにいたくなる」です。橋本市長さんと同じ考え方だなぁと思います。

「文武両道」は、自分の将来を切り拓くことに直接結びつきます。

第2学期は、生徒の皆さん、一人一人に「文武両道」を須賀川二中の誇り、スクール・プライドと言えるよう頑張ることを期待して、式辞とします。

その後、生徒の前で話す機会があったときに「やらされ意識になる瞬間を限りなくゼロに近づけよう」と呼びかけました。あえて「道」というのは、その取り組みを通して自分の内面を高める、充実させるという態度を重んじるからでしょう。二つを関連付けて受け止めてほしいと思います。

## ひと味違うぞ！ 二中生



第2学期が始まって2日目の8月28日(火)の朝は雨降りでした。自転車通学の生徒の中には、レインコートを着ていても体がぐっしょりと濡れ

てしまった生徒もいました。

私が校門のところに立っていると、一人の女子生徒が私にあいさつをした後、横断歩道をこちら側に渡ってきました。そして、少し待った後、手を振りながら「おはよう」と友達に明るく声をかけ、その友達に傘を差し掛けました。

坂を上って行く二人を見送ると、傘を差し掛けてもらった生徒はもちろんのこと、差し掛けた女子生徒の肩も、雨に濡れて少し光っていました。